

口永良部島の火山活動解説資料（平成 20 年 4 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
火口内で噴気や火山ガスの噴出が見られ、火口内等では警戒が必要です。
1 月 25 日に噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）をレベル 1（平常）に引き下げました。その後、予
警報事項に変更はありません。

○ 4 月の活動概況

・噴気活動

新岳^{しんだけ}・古岳^{ふるだけ}の噴気に特段の変化はありません。

・地震、微動活動（図 2、図 3）

火山性地震の発生は一時的な多発もなく、落ち着いた状態で経過しました。月回数は 128 回（3 月：150 回）でした。火山性地震の震源は、新岳火口直下のごく浅い所に分布しました。

火山性微動の月回数は 7 回（3 月は 3 回）で少ない状態で経過しました。

・地殻変動（図 4、図 5）

GPS 連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化は観測されませんでした。

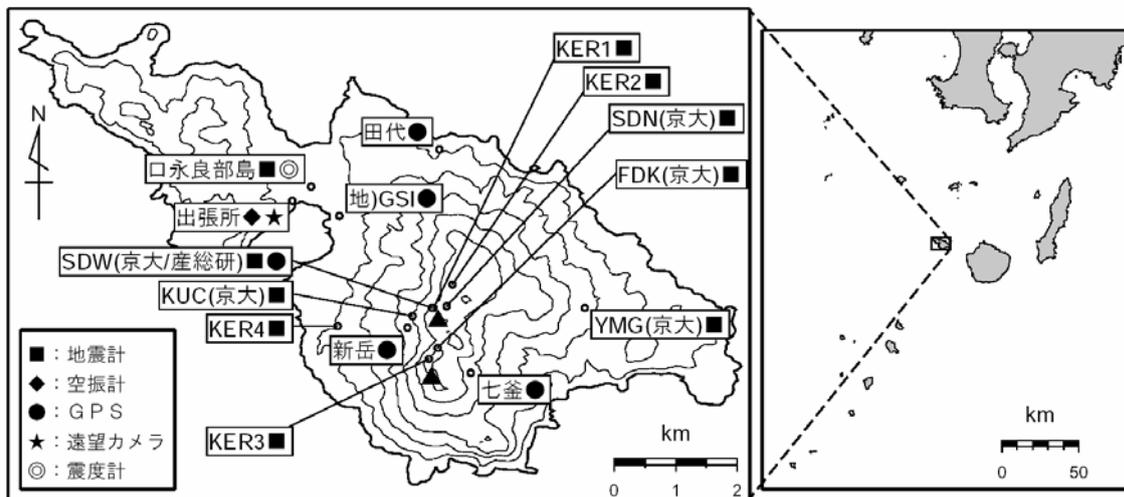


図 1 口永良部島 観測点配置図

※この資料の作成に当たっては、気象庁のデータその他、国土地理院、京都大学、独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用しました(承認番号：平 17 総使、第 503 号)。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成 20 年 5 月分)は平成 20 年 6 月 6 日に発表予定です。

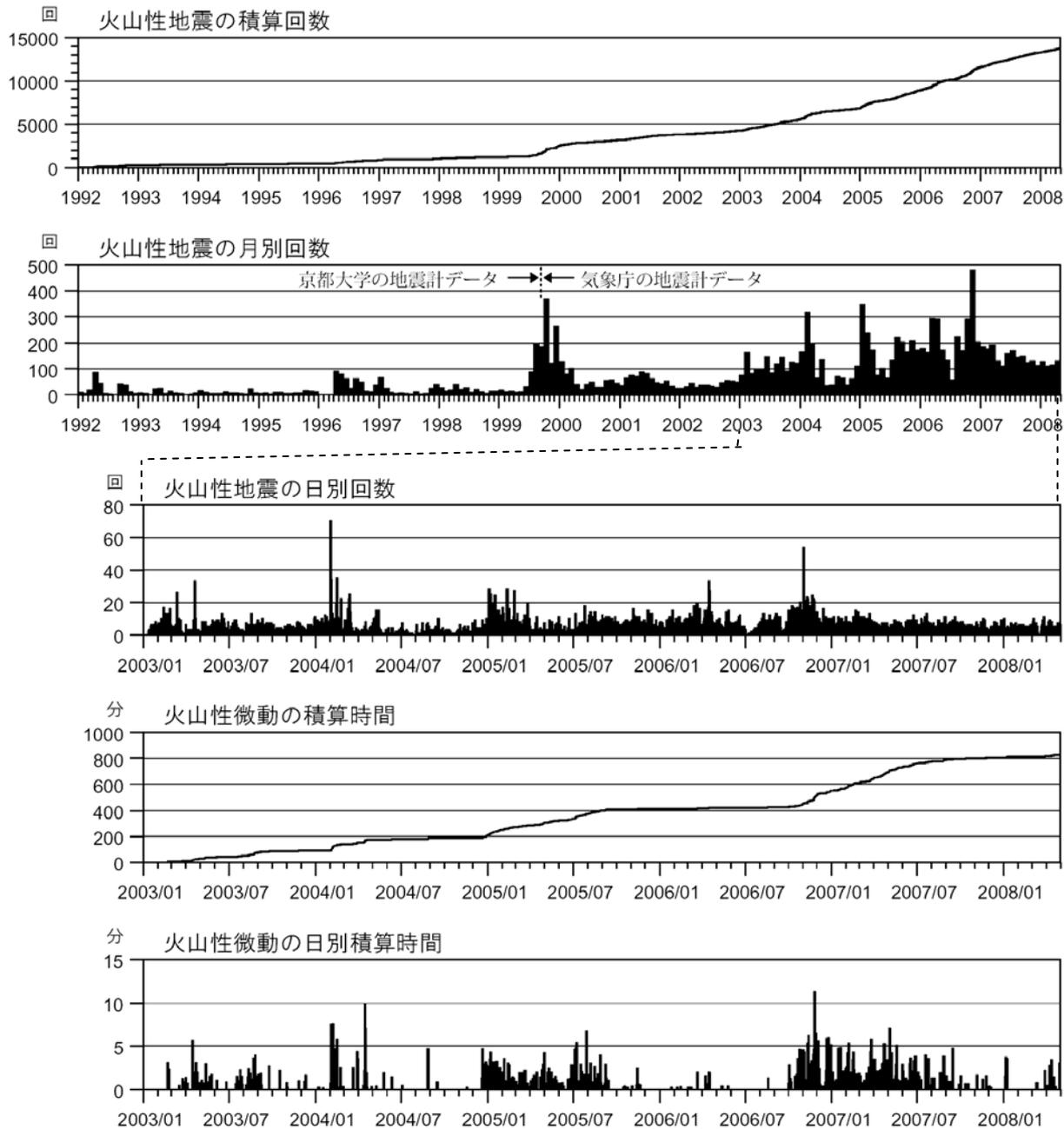


図 2※ 口永良部島 火山性地震・微動活動経過図(1992 年 1 月～2008 年 4 月)
 ・火山性地震及び火山性微動は少ない状態で経過しています。

*1992 年 1 月 1 日～1999 年 9 月 12 日及び 2005 年 12 月 15～28 日間は京都大学のデータを使用しました。
 *2002 年 12 月 22 日～2003 年 1 月 11 日まで地震計 KER 1 の機器障害のため欠測しました。また、2005 年 7 月 9 日～9 月 18 日、2005 年 11 月 5 日～12 月 14 日まで地震計 KER 1 の機器障害のため、地震計 KER 3 で回数を計数しました。

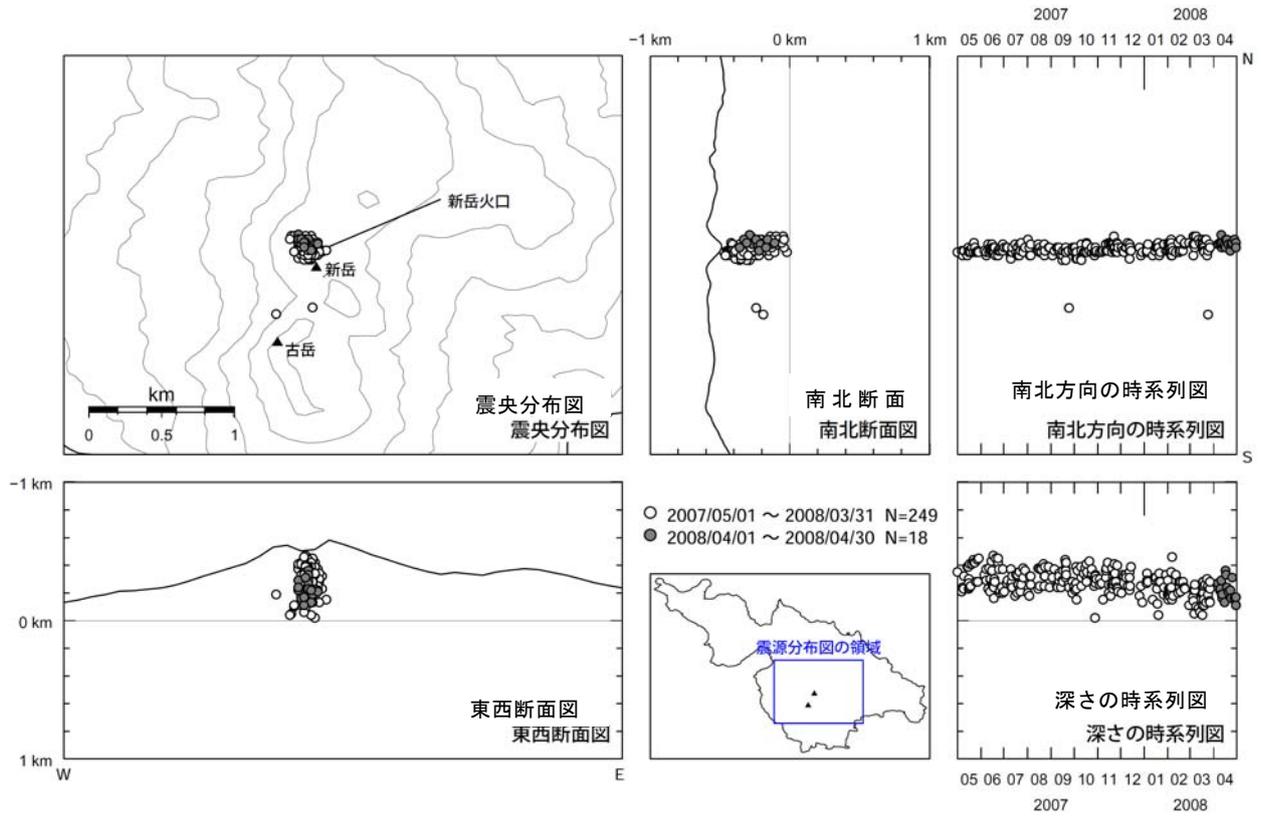


図 3* 口永良部島 震源分布図(2007 年 5 月～2008 年 4 月)

火山性地震の震源は 18 個求まり、新岳火口直下のごく浅い所に分布しました。

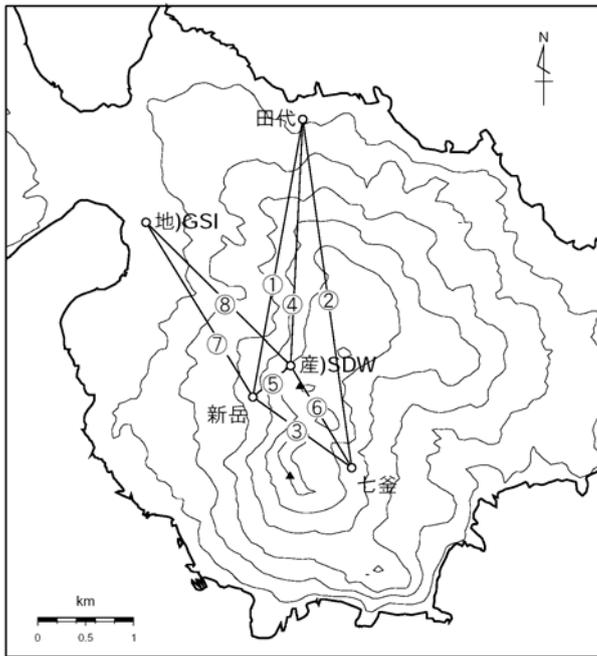


図 4 口永良部島 GPS 連続観測基線図

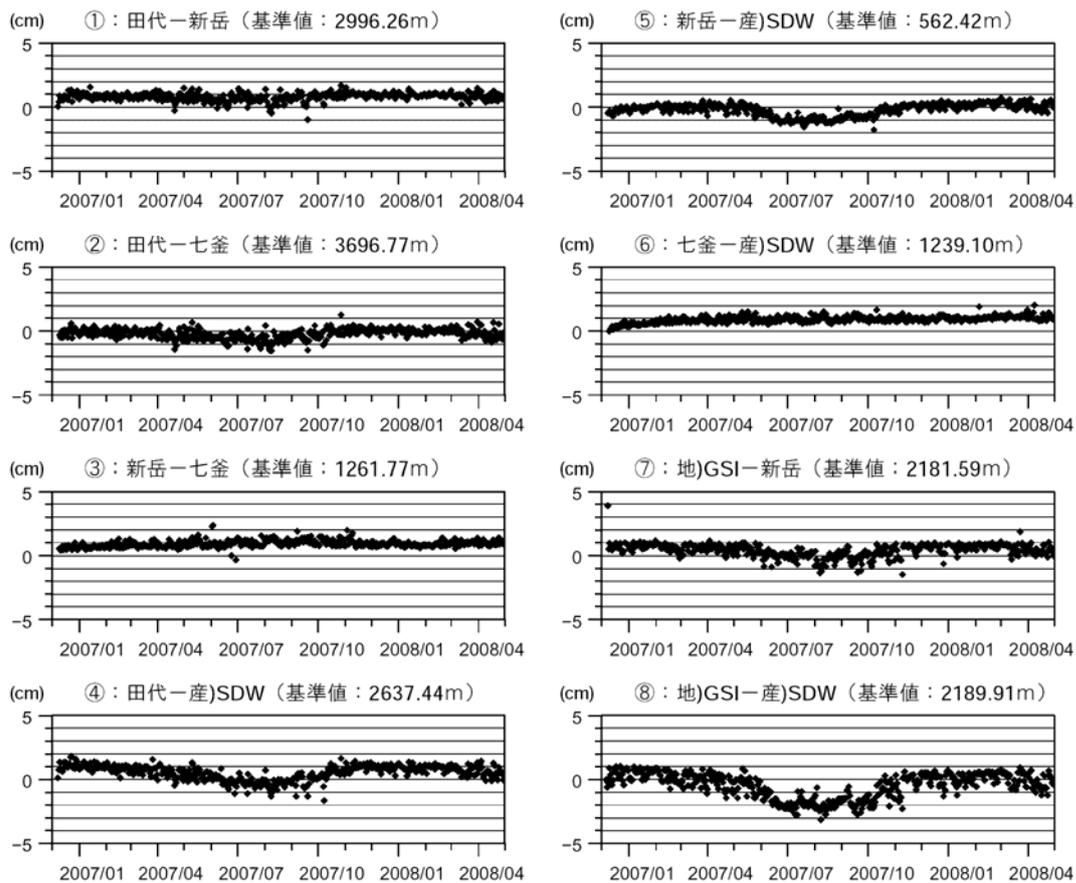


図 5 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化(2006 年 12 月 8 日～2008 年 4 月 30 日)

火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

この基線は図 4 の①～⑧に対応しています。